

平成30年9月10日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名： シンポジウム「イスラエル・パレスチナの葛藤と対話 ～70年目を迎えて～」基調講演
- 企画実施概要： ①実施内容：主催団体が開催する上記のイベントの基調講演者として、当団体職員を派遣する。
②対象者および参加人数：一般の方約80名

- 2 出張者氏名 並木 麻衣（パレスチナ事業担当）
- 3 依頼元／主催団体名 日本・イスラエル・パレスチナ学生会議（担当者：佐藤光）
- 4 実施予定日時 平成30年8月19日（日） 14:00～19:30
- 5 実施場所 JICA地球ひろば セミナールーム600（東京都新宿区）
- 6 実施報告 ・該当企画において、当団体を含む日本の国際協力NGOによる現地における活動や、イスラエル／パレスチナの市民による活動を紹介し、現地においてどのような役割を日本のNGOが果たしているのかを伝えた。
・「現地の具体的な話が聞けてよかった」、「互いに立場の違うイスラエルとパレスチナの双方の意見が聞ける場は貴重だと感じた」などの感想をいただいた。

7 写真

	
当日の会場で本制度を告知する並木	講演ではなるべく現地の活動を想起させるよう、写真を多く使って説明を行った

平成30年11月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
関西NGO協議会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：『2018年度開発教育・国際教育セミナー』におけるNGO相談員ブース出展

企画実施概要：
①実施内容：
JICA関西、大阪府国際交流財団、大阪国際交流センターが学校と地域、NPO/NGOなど諸団体と連携し、国際教育の教材と授業づくりの事例報告、情報提供の場として実施する「開発教育・国際教育セミナー」で、相談員ブースを出展し、参加者（主に教員）からの国際協力の潮流や日本のNGOに関する質問・相談に幅広く応じる
②実施対象者：
教職員を中心に、学生、開発教育・国際教育に関心のある方、70名

2 出張者氏名 谷川詩織

3 依頼元／主催団体名 独立行政法人国際協力機構関西センター（JICA関西）

4 実施日時 平成30年8月2日（木）10:00～15:00

5 実施場所 国際協力機構関西国際センター（JICA関西）
兵庫県神戸市中央区

6 実施報告
・小学校・高校教員からの相談が多く、開発教育・国際理解教育を学内で実施するにあたり、現場や課題をよく知るNGOのスタッフに話をしてもらうことはできるかという相談や、既に活動を始めている生徒の学外での情報交換・交流の場を探している、という相談が多く見られた。
・参加者は国際協力への関心は高いものの、NGOなどの支援実施団体や他組織との関わりがない方が多く、このような場で国際協力NGOの持つ情報を提供できることが地域の国際協力分野の裾野拡大や連携促進につながるものと感じている

7 写真



会場の様子



NGO相談員ブースの様子

平成30年11月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益社団法人
日本国際民間協力会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 学生のための国際理解ワークショップ実践セミナー

企画実施概要： ①実施内容
国際協力NGOの実際の活動を例に、ワークショップを通して、国際協力の現実や関わり方を考える。

②対象者および参加人数
中学・高校・大学生、40名

2 出張者氏名 岡田克彦／大豊盛重

3 依頼元／主催団体名 JICA京都デスク

4 実施予定日時 平成30年8月31日(金) 10:00～16:30

5 実施場所 ひとまち交流館・京都(京都府京都市)

6 実施報告 JICAの活動以外の活動として、NGOがどんな活動を、どのように活動しているかをよく知ることができて良かった。NGO以外のアクターについての説明も良かった。

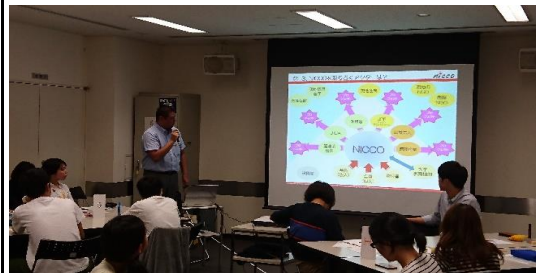
国際理解のワークショップをファシリテーターとして進めるようになるために、国際協力の個々の活動を学び、ワークショップに活かせるのが非常に役立ったと思う。

本ワークショップに参加した学生の親御さんからも、子供の国際協力のキャリアを考える上で、国際協力の幅広い活動を知ることが出来て良かった。

7 写真



ワークショップを通じて練られた参加者からの質問に答えるNGO相談員



NICCOを例にNGOを取り巻くステークホルダーについて、解説している岡田

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 【NGO相談員近畿ブロック】JICA国際協力推進員との連携会議

企画実施概要： ①実施内容 近畿ブロックNGO相談員とJICA関西国際協力推進員間での連携を深め相談員活動を推進するための会議。関西地区で、これまで継承されてきた協働事業促進や各地域の新しい推進員との顔合わせや事業計画情報の共有など更なる連携、協働に向けた協議を行う。近畿ブロック3団体が協力することにより、2府4県全域を地理的にも効率的にNGO相談員の制度を活用していただくことが出来る。

②対象者および参加人数
NGO相談員3団体とJICA関西各地区推進員4名、JICA職員2名

2 出張者氏名

高橋 美和子（特定非営利活動法人 関西NGO協議会）
大豊 盛重（公益社団法人 日本国際民間協力会）（NICCO）
中西 美樹（公益財団法人 PHD協会）

3 依頼元／主催団体名 JICA関西

4 実施日時 平成30年8月1日(水) 11:30～13:00

5 実施場所 JICA関西（兵庫県神戸市中央区）

6 実施報告

双方の制度について説明を行った後、連携の成功事例としてNICCOと京都府推進員が実施する「学生のための国際理解ワークショップ実践セミナー」のプレゼンテーションが行われた。その後、それぞれの制度の強みを生かした新たな活動の創出、波及効果について活発な意見・アイデアが出された。

推進員からはNGO相談員の担当府県や、各団体の相談対応可能な分野など、具体的な相談方法に質問が及んだ。また、JICA関西総務課の職員も参加し協議に参加頂いたことで、制度間の連携・協力にも前向きに検討いただけるものとする。

成果としては、若い世代への国際協力への参加を促進するために、ワンワールドフェスティバルユースでの高校生の活動や学校での講演活動、イベントでのブース出展の連携協力の可能性が見い出され、今後もそれについて協議していくことで合意を得た。

7 写真



（PHD中西撮影）

平成30年8月8日

外務省国際協力局民間援助連携室

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 第15回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー

企画実施概要： ①実施内容
記セミナー会場にてNGO相談員ブースを設け、セミナー参加者からの相談に対応した。

②対象者および参加人数
国際理解教育・開発教育に関心のある教職員、学校関係者、学生。6日97名、7日107名

2 出張者氏名 坂西 卓郎

3 依頼元／主催団体名 兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、神戸YMCA、JICA関西、他2団体

4 実施予定日時 2018年8月6日(月)、7日(日) 13:00～17:00

5 実施場所 JICA関西2F(兵庫県神戸市)

6 実施報告 冒頭の開会あいさつにて参加者全員にNGO相談員制度のことをPRし、その後、参加者からの個別相談に対応した。二日間で対応総数は12人、19件であった。

まず本セミナーの対象は「国際理解教育・開発教育に関心のある教職員・学校関係者または学生」を対象にしているが、本年度の特徴としては教員の方が多かったことが挙げられる。そういったアクティブな先生方約100名にNGO相談員制度のことをPRできたことは今後につながったと思われる。またアンケートにも「NGO相談員の話を知りたい」という声もあった。

次に個別相談であるが、こちらも現場の教員からのリアリティを反映した生徒の就職相談や授業での活用などの相談があり、有意義であったと思われる。

7 写真



(キャプション) 参加者全員にNGO相談員制度及び外務省との連携について説明しているところ



(キャプション) 相談ブースにて相談対応を実施している様子

平成30年11月9日

外務省国際協力局民間援助連携室 御中

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

記

1 企画名および企画概要

企画名： 青少年グローバルリーダー育成フォーラム

企画実施概要： ①実施内容
高知県青年国際交流機構(高知県IYEO)が毎年、青少年を対象に開催しているグローバルリーダー育成フォーラムに参加。午前はJICA-NGOブースにおいて、15分×5組 各8-10名の高校生グループに対面式で相談対応を行った。「ODAガール&主夫ボーイ」やNGO相談員チラシを手交しながら四国のNGO活動やフェアトレードに関する動きについて紹介した。午後は青年海外協力隊分科会に参加、グループリーダーとして高校生より「村の利益よりも、相談相手(相手国カウンターパート)からの意見を十分に確認することが大切。」「機械や建物といったハードな面より、人と人との対話などソフト面の充実が一番大切だ。」などの率直な意見を引き出しながら、グループとして意見をまとめるグループワークを行った。

②対象者および参加人数
高校生230名、ボランティアスタッフや教員等40名 計270名

2 出張者氏名 菅 未帆

3 依頼元／主催団体名 高知県青年国際交流機構(高知県IYEO)

4 実施日時 平成30年8月12日(日) 12:00～17:00

5 実施場所 かるぽーと(高知県高知市)

6 実施報告 ～参加者の感想より～
① NGOや青年海外協力隊参加はどのくらいの期間行くのか、言葉のレベルはどのくらい必要なのか、どんな技術が必要なのか分からないことばかりだったが、具体的な数字を教えてもらい、自分で調べる方法を具体的に教えてもらったことで、とても身近に感じられるようになった。
② これまで国際協力と言えば、ユニセフ等の国連やJICAの青年海外協力隊に参加するしか、参加できる方法がないと思っていたが、四国にもさまざまな活動を行っているNGOがあることを知り、学生の段階からチャレンジしてみたいと感じた。
③ 高い英語力や農業知識など専門的な技術がなければ国際協力には参加できないだろうと思っていたが、今回の分科会参加で「相手の立場になって話を聞き、相手と一緒に協力を進めていくことが一番大切」と知ることができて自分にも何かできるのではないかなと思うようになった。

7 写真

	
対面式で相談対応中	各分科会で学んだ事を共有し合う参加者

平成30年11月9日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 世界のウチナーンチュ発！多文化共生
～いちやりばちょで一の地域を目指して～

企画実施概要： ①実施内容
沖縄へゼミ合宿へ来る立教大学の学生を対象にワークショップを実施。沖縄移民の歴史を通して、多文化共生への取り組みなどを紹介。

②対象者および参加人数
立教大学学生13名、引率教授1名

2 出張者氏名 永田有希

3 依頼元／主催団体名 立教大学社会学部ゼミ担当教授

4 実施予定日時 平成30年8月8日(水) 10:00～13:00

5 実施場所 会場名 沖縄産業支援センター(沖縄県那覇市)

6 実施報告 沖縄移民の歴史を通して、沖縄の南国・観光のイメージだけではない現状を伝えた。外国人が増える日本社会で沖縄ではどのような活動を通して多文化共生を目指しているのか、その活動の一部を紹介することで、学生たち自身の地域がどのように多文化共生できるのか考えるきっかけとなった。学生からのコメント:「沖縄に対するイメージが少し変わり、新しい発見ができた」「多文化共生を目指す上で必要なことを学べた」

7 写真



沖縄のイメージを皆で共有



ワークショップ後にグループ内で感想の共有